



横浜市山下町地区第一種市街地再開発
事業 B1 地区に伴う発掘成果

やましたきょうりゅうち
山下居留地遺跡
(横浜市中区No.21 遺跡)

明治時代の商館跡を発掘

やましたきょうりゅうち
山下居留地遺跡の発掘調査

横浜市中区山下町に所在する山下居留地遺跡は、横浜
市山下町地区第一種市街地再開発事業 B1 地区に伴い
2007年9月から12月まで発掘調査を実施しています。

山下居留地は、幕末の開港以降、商館が立ち並び、多
くの外国人が訪れるなど諸外国との貿易の舞台となつた
場所です。調査範囲の 48・54・55 番地は、その居留
地の一角にあたります。

調査では、幕末～明治時代までの外国商館建物跡や道
路跡、それに伴う陶磁器類・ガラス瓶など、多数の遺構
や遺物が発見されています。

なかでも煉瓦や切石を用いた建物の基礎からは、商館
での生活の一端をうかがい知ることができます。

今回発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理
や分析などを経て発掘調査報告書として刊行され、広く
公表されます。

これら先人達の足跡を、郷土横浜の歴史を探る資料と
して活用して頂ければ幸いです。



55番地 貯水槽



55番地 建物基礎



55番地 レンガ基礎



55番地 レンガ遺構と導水管



55番地 便所



55番地 便所

【外国人居留地】 1859年(安政6)の開港から1899年(明治32)に廃止されるまで、約40年間にわたって存続した制度。居留地と呼ばれる開港場の一定区域に限って商取引を行い、邸宅などを構えることが認められた。横浜外国人居留地は、山下(関内)地区と山手地区にあったが、特に山下町一帯は外国商館などが多数存在していた。



※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。



山下居留地 地図(増田万吉 明治初年) 横浜開港資料館 所蔵



地形図「横浜東部」25,000分の1 国土地理院を縮小・改変



横浜市山下町地区第一種市街地再開発
事業 B1 地区に伴う発掘成果

山下居留地遺跡(横浜市中区No.21 遺跡)

2007年11月24日

財団法人 かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>

財団法人 かながわ考古学財団



54番地 ジェラール瓦



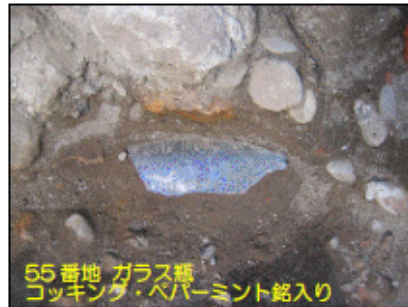
54番地 ドイツタイル



54番地 ワインボトル



55番地 ガラス杯



55番地 ガラス瓶
コッキング・ペパーミント銘入り



55番地 鉄製ナベ



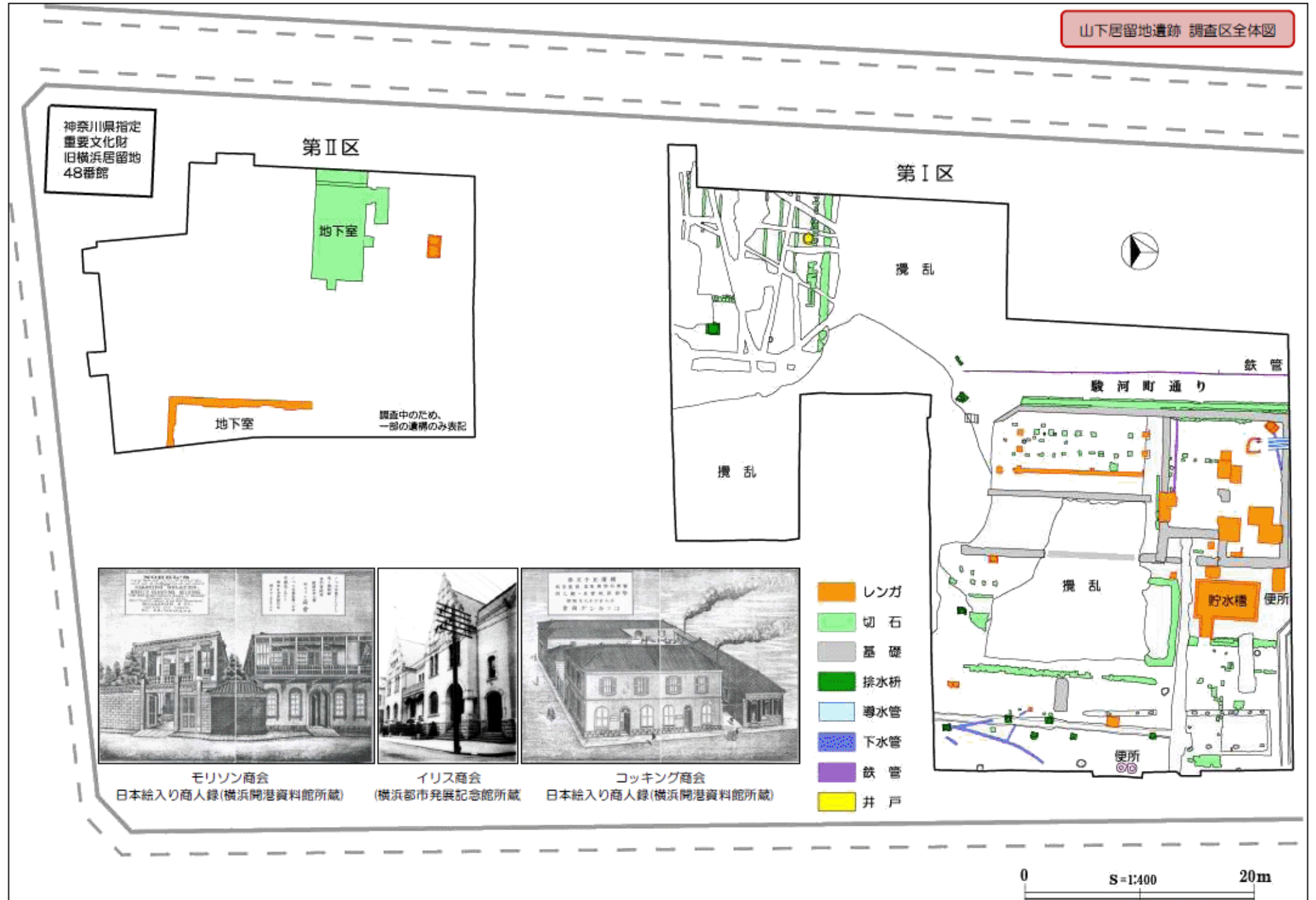
駿河町通り 切石側溝



駿河町通り 鉄管・瓦管下水道



駿河町通り 側溝遺物出土状況



◆全体図は発掘調査中の主な遺構を示したものであり、一部表記していないものがあります。◆調査の内容は出土品整理の結果によって、正式な発掘調査報告書で表現及び評価を変える場合があります。
◆参考文献：横浜開港資料館編 1998「図説 横浜外国人居留地」有隣堂、(財)文化財建造物保存技術協会 2003「元山下町分庁舎倉庫(神奈川県指定重要文化財 旧横浜居留地 48番館)保存工事報告書」
横浜都市発展記念館 2007「News letter」第8号 横浜都市発展記念館 館報

【48番地】モリソン商会（イギリス系貿易商社）

1867年(慶応3)から製茶貿易を営む。ダイナマイトを輸入して鉱山業の発展に大きな貢献をした。

【54番地】イリス商会（ドイツ系総合商社）

外国商人開業第1号。1863年(文久3)のクニフラー商会として発足。1880年(明治13)からイリス商会として、イギリスの綿毛製品・鉄・機械・染料・薬品を輸入、日本からは茶・魚油などを輸出していた。1934年(昭和9)まで54番地に所在していた。

【55番地】コッキング商会（イギリス系貿易商社）

1875年(明治8)以降、機械・薬品・医療器具・写真器材を輸入し、ハッカ・百合根などを輸出していた。1885年(明治18)～1896年(明治29)まで、55番地に所在し、ハッカを製造していたことから「ハッカ屋敷」と呼ばれていた。サムエル・コッキングは、江ノ島に植物園を造っている(コッキング苑)。

記録図面の作成作業



遺構等は土層観察帯を設定し、地層の堆積状況を記録します。

測量作業



遺構の形や遺物出土地点の測量を行いながら調査を進めます。